

【“当たり前前じゃない”大切な水】

沖繩県 那覇市立小緑中学校

二年

作田 さくだ ゆい

皆さんは、私達の生活から突然「水」が無くなったらどうしますか。私は想像するだけで不安になります。「水」は、私達の生活にとつてなくてはならない必要不可欠な存在で、飲み水や料理、洗濯やお風呂、トイレなど多くの場面で利用されています。私には、そんな身近な「水」の「大切さ」を知ることになった経験があります。

今から九年前、たくさんの人の命を奪った「東日本大震災」。当時四歳だった私は土栃木県に住んでいました。大地震の影響で停電となり、水も出なくなりました。蛇口をひねっても全く水が出ない間、私達は非常用に常備していた水を少しずつ大切に使うて過ごしていました。地震から数日たって、決まった時間だけ水が出るようになった時には、ペットボトルや洗面器などに水をためました。この時私は「水の大切さ」や「水のありがたみ」を実感し、蛇口から出る水を当たり前のようについていた事にはっと気づかされました。そして、自分が思っていた以上に普段水を使っている、私達の生活には欠かせないものだと思えました。これらは、災害によって気づかされた事です。

世界には、六億六三〇〇万人もの人々が安心して飲める水が身近になく、池や川、湖や整備されていない井戸などから水を汲んでいるそうです。多くの途上国では、「水汲みは子供達の仕事」となっていて、三三〇万人を超える子供達が水の重さに耐えながら、毎日遠い道のりを歩き続けています。疲れ果てた子供達には、学校へ通う時間も体力も残されていません。そして、毎日八〇〇人もの子供達が汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としています。また、手に入る水の量が少ないために、身体や生活環境を清潔に保つことができなくなると肺炎などの様々な病気に感染しやすくなります。どうして同じ人間なのに「水」の在り方がこんなにも違うのでしょうか。私はすごく驚きました。このようなこととおかしいと思います。私達日本人は、普段、

水に困ることはほとんどありませんが地球上にある水のうち、人類が使えるのはわずか〇・〇一パーセントしかないそうです。そして、地球のすべての水を風呂桶一杯分として計算すると、飲み水として使えるのはわずか一滴程度というように、いつも当たり前のように飲んでいる水はとても貴重な限りある資源だということを感じました。

私達の生活に必要な不可欠な「水」は、飲み水や料理、お風呂やトイレなど様々なことに役立つています。そんな大事な「水」をなくさないために、私達人一人一人が限りある水の「大切さ」を理解し、無駄使いをしない、水を汚さないなどを意識することが大事だと思います。また、水を自由に使えることを当たり前だと考えるのではなく、水を使うことに感謝し、川や海などの自然の水を大切にしたいです。まずは自分たちのゴミは必ず持ち帰ることを一人一人が心がけ、自分のゴミ以外のゴミも拾い、来る前よりも美しくしようと思います。そして、私達が使っている生活用水をできるだけきれいに自然に戻すことができるように、洗剤をいつも少し減らしてお皿を洗ったり、油を紙で吸いとったりしていききたいです。このような小さなことを一人一人の人が積み重ねて、限りある資源である「水」をいつまでも守って、共に生きていきたいと思えます。